

タイワンガザミの種苗生産事業

島袋新功・玉城 信

本事業の詳細は、昭和59年・60年・61年度「沖縄県栽培漁業センター事業報告書（沖裁セNo1）」に報告したので、ここでは要約を示した。

(1) 親ガニ

親ガニは、石川市、沖縄市、与那城村、名護市の漁協から、5月～9月に5回・計456尾の抱卵親ガニを購入し、屋外8kℓ水槽に収容し、ふ化をさせた。

(2) 幼生飼育

幼生は、親ガニ飼育水槽の通気を止めて、表層に浮上した幼生をタモ網で採集し、上屋付き50kℓ水槽に収容し飼育を行った。幼生の収容密度は1.9～10.0万尾ノkℓ、餌料はワムシ、アルテミア、冷凍アサリ肉などを投餌した。本年度は、5月～8月まで4回次・延べ16面の幼生飼育を行ったが、1・2回次では糸状菌症(?)が発生しゾエア期後半に大量減耗、3・4回次では収容幼生の活力が弱くゾエア期初期に大量減耗したため、合計生産尾数8千尾にとどまった。